

2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月31日

上場会社名 SREホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 2980 URL <https://sre-group.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長 兼 CEO (氏名) 西山 和良
問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 CFO 兼 コーポレート戦略推進担当 (氏名) 益子 治 TEL 03-6274-6550
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	7,500	15.1	608	△20.1	534	△22.9	368	△42.5
2023年3月期第2四半期	6,517	91.2	761	135.3	693	126.9	640	215.0

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 395百万円（△40.2％） 2023年3月期第2四半期 662百万円（226.4％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	22.76	22.49
2023年3月期第2四半期	39.68	39.37

（注）2023年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年3月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	25,358	11,789	45.1
2023年3月期	21,956	11,316	50.1

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 11,436百万円 2023年3月期 10,995百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,300	20.3	2,150	27.5	2,000	29.8	1,430	24.5	88.49

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	16,185,895株	2023年3月期	16,160,015株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	337株	2023年3月期	297株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	16,169,387株	2023年3月期2Q	16,135,506株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年11月1日（水）に機関投資家及び証券アナリスト向け決算説明会（ネット・カンファレンス）を開催する予定であります。なお、当日使用する決算補足説明資料は、2023年10月31日（火）にTDnetで開示、及び当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

2022年7月29日に行われたDORIRU株式会社との企業結合について、前第2四半期連結累計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前第2四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「今の先鋭が10年後の当たり前を造る A DECADE AHEAD」をミッションに掲げ、大きく2つの事業を展開してまいりました。1つ目の事業は、不動産/金融業界からIT/ヘルスケア領域まで様々な業界のDXに向けて、機械学習等のテクノロジーを活用したモジュールをベースに、パッケージ型クラウドツールやテラーメイド型アルゴリズムを提供する「AIクラウド&コンサルティング」事業であります。2つ目の事業は、お客様への確かな価値提供とテクノロジーの積極活用の両立を目指すアセットマネジメント、売買仲介コンサルティング、デベロップメント/インベストメント事業を展開する「ライフ&プロパティソリューション」事業であります。

実業（リアルビジネス）である不動産や金融、IT/ヘルスケア事業を自ら手掛け、業務上の非効率や課題に直面することで、機械学習等の高度なテクノロジーの活用の可能性を見出し、当社グループの内部オペレーションにそのテクノロジーを取り込み、競争力・効率性の改善を図っております。同時に、リアルビジネスのテック化により効果が検証された業務推進・効率化ツールは、当社自身がユーザーとして使い勝手をフィードバックすることで実務有用性を磨き込み、同業他社のお客様に提供しております。加えて、ツールのベースとなるモジュールを活かすことで、差異化されたコンサルティングを幅広い産業のお客様にご提供するビジネスモデルを構築しております。

実業（リアルビジネス）を手掛けることが、実務有用性の高いAIソリューション・クラウドツールの顧客への提供に密接かつ効果的に機能しており、この「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」という独自の顧客提供価値の追求が、様々な業界のDXや事業拡大に貢献しております。

当社グループが手掛けるAIクラウド&コンサルティング事業の業務環境をみれば、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む一方で、専門人材不足などの課題が深刻化しております。そのため、省人化や利益拡大を見据えた取り組みをテクノロジーの活用を通じて進める業界横断的なDX気運の高止まりが随所にみられ、実務有用性の高いDXソリューションを提供する当社事業においても追い風となっております。ライフ&プロパティソリューション事業の業務環境をみれば、様々なアセット種別に対する投資ニーズの高まりが引き続き見られます。一方、金利動向の不透明感が継続していますが、新築マンション価格上昇により中古マンションへの関心が高まったことで、首都圏の中古マンションの売買成約件数が昨年と比較して持ち直しの動きがみられます。

このような業務環境の下、当社グループは従来の不動産領域に加えて、金融やIT/ヘルスケア領域においても事業成長を着実に進捗させ、その他産業に向けても自社の持つAIモジュールを活かしたDXソリューションを提供してまいりました。また当社グループは、ChatGPTをはじめとした生成AIを活用したクラウドソリューション群の競争力強化に向けて、当社グループ独自の一次データを学習させた生成AIを組込んだ不動産領域特化型AIチャットボットのプロトタイプを開発しました。加えて、隣接領域における取組みとして、医師や医療事務とのプロトタイプ開発体制を構築し、集患/ナーチャリング等のクリニック経営課題に対応したDXソリューションのプロトタイプ開発を行いました。当社がこれまで既存領域におけるDX推進・実装してきた実績を基に、今後もヘルスケア領域等の隣接領域に対して「リアル×テクノロジー」の価値創出を横展開するため、実務有用性の高いDXソリューションの創出に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、クラウドソリューション（CS）・アナリティクス&トランスフォーム（A&T）ともに獲得数が着実に伸長し、ARR（アニュアルリカーリングレベニュー）を積み上げた他、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティも計画どおりに進捗したことで、売上高は7,500,231千円（前年同期比982,891千円増（15.1%増））、営業利益は608,561千円（前年同期比152,876千円減（20.1%減））、経常利益は534,721千円（前年同期比158,670千円減（22.9%減））、親会社株主に帰属する四半期純利益は368,072千円（前年同期比272,178千円減（42.5%減））となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び名称を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

<AIクラウド&コンサルティングセグメント>

CS(不動産価格推定エンジンなどのディープラーニング技術を核とするパッケージ化されたAIを用いたクラウドサービス)は、開発/販売面でのオペレーション改善や体制強化を進め、課金契約数を着実に増やすとともに、解約率も非常に低い水準を維持してまいりました。また、当社保有の一次データを学習させた生成AIの組み込みが進捗し、このたび不動産分野特化型のAIチャットボットの開発に成功しました。今後は社内での効果検証による磨き込みを重ねると同時に、新機能の開発・実装やテストマーケティングを通じて外販を行い、ARRの更なる積み上げを図ってまいります。

A&T(幅広い業界におけるマーケティング活動、営業活動といった顧客企業の様々な経営課題に対して、将来予測分析ツールを用いた解決策若しくはシステムの提供又は共同ビジネス開発を行うサービス)は、様々な産業知見を持つコンサルタント・データサイエンティストの参画に加えて、当社独自のAIモジュール等を活かして差異化されたコンサルティングの提供により、共同開発案件を受注できたことから、新規クラウドソリューションの仕込みが進捗しました。加えて、一部ロイヤルカスタマーのリピーター案件獲得を拡大し、着実に事業を拡大させてまいりました。

その結果、CS・A&Tともに獲得数が着実に伸長し、ARRを積み上げたことで、当第2四半期連結累計期間におけるAIクラウド&コンサルティングセグメントの売上高は2,134,020千円(前年同期比739,126千円増(53.0%増))、セグメント利益は725,078千円(前年同期比167,197千円増(30.0%増))となりました。

<ライフ&プロパティソリューションセグメント>

当社テクノロジーを活用したアセットマネジメントや売買仲介コンサルティングを提供するとともに、スマートプロパティとして、IoT技術やESG対応を施したマンション/オフィス/ショッピングセンター/ホテル/シニア関連施設等の開発・投資及び投資家向けの販売を計画に沿って実施しております。また、アセットマネジメント事業の拡大に向けて、当社において開発した物件のファンドに対する継続的な売却及び市場からの外部調達を行い、棚卸資産を過剰に保有することなく収益性に優れたリカーリングフィーを積み上げる積層型ビジネスモデルへの転換を進めております。当社グループは、これらの事業においてテクノロジーを活用したDX化を推進するとともに、その中で生まれた気づきを幅広いお客様に提供するAIソリューションに反映しております。

その結果、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティともに計画どおり進捗したことで、当第2四半期連結累計期間におけるライフ&プロパティソリューションセグメントの売上高は5,726,155千円(前年同期比262,357千円増(4.8%増))、セグメント利益は52,639千円(前年同期比226,575千円減(81.1%減))となりました。

<その他セグメント>

本セグメントでは、中長期的なサステナブルグロースに向けてヘルスケアDX等の新規プロダクト開発投資を行っており、主にプロトタイプ開発や人材獲得等を実施しております。また、プロダクト開発に向けてヘルスケア事業を手掛け、「リアルビジネスを内包した実務有用性の高いテクノロジー」の創出に向けた取り組みを加速しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他セグメントの売上高は、ヘルスケア事業の事業運営により29,582千円、セグメント損失は新規プロダクト開発投資により80,040千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,401,986千円増加し、25,358,417千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より3,267,981千円増加し、21,879,312千円となりました。これは主に、現金及び預金が1,871,299千円減少した一方、棚卸資産が5,506,624千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より159,812千円増加し、3,453,297千円となりました。これは主に、有形固定資産が33,908千円、のれんが56,323千円、投資その他の資産が51,453千円増加したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末より25,807千円減少し、25,807千円となりました。これは、株式交付費が25,807千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,929,219千円増加し、13,569,386千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より200,566千円減少し、5,762,152千円となりました。これは主に、買掛金が160,305千円増加した一方、未払金が168,025千円、未払法人税等が135,925千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より3,129,785千円増加し、7,807,233千円となりました。これは主に、長期借入金金が2,962,163千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ472,767千円増加し、11,789,030千円となりました。これは主に、新株予約権の行使及び新株発行により、資本金が34,794千円、資本剰余金が34,794千円増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により、利益剰余金が367,680千円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は45.1%となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,871,299千円減少し、1,936,235千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は4,506,098千円（前年同期は967,386千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益525,581千円、営業出資金の減少額477,173千円等の資金増加要因が、棚卸資産の増加額5,506,624千円、未払金及び未払費用の減少額559,086千円等の資金減少要因を下回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は254,829千円（前年同期は136,070千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出57,348千円、無形固定資産の取得による支出153,993千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出47,658千円等の資金減少要因によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は2,889,628千円（前年同期は768,686千円の使用）となりました。これは主に、長期借入れによる収入5,202,544千円等の資金増加要因が、長期借入金の返済による支出2,459,545千円の資金減少要因を上回ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月10日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,837,535	1,966,235
売掛金及び契約資産	636,267	840,556
営業出資金	1,395,931	918,758
棚卸資産	12,200,552	17,707,176
その他	542,240	447,038
貸倒引当金	△1,196	△453
流動資産合計	18,611,330	21,879,312
固定資産		
有形固定資産	686,184	720,093
無形固定資産		
ソフトウェア	697,434	718,790
のれん	726,372	782,696
その他	15,853	12,625
無形固定資産合計	1,439,661	1,514,112
投資その他の資産	1,167,638	1,219,091
固定資産合計	3,293,484	3,453,297
繰延資産		
株式交付費	51,615	25,807
繰延資産合計	51,615	25,807
資産合計	21,956,430	25,358,417
負債の部		
流動負債		
買掛金	94,322	254,628
短期借入金	4,281,440	4,214,658
未払金	243,431	75,406
未払費用	557,008	515,985
未払法人税等	324,588	188,662
賞与引当金	177,184	177,432
その他	284,743	335,378
流動負債合計	5,962,719	5,762,152
固定負債		
長期借入金	4,389,671	7,351,834
退職給付に係る負債	66,782	54,735
その他	220,994	400,664
固定負債合計	4,677,447	7,807,233
負債合計	10,640,167	13,569,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,147,654	4,182,449
資本剰余金	4,147,654	4,182,449
利益剰余金	2,702,637	3,070,317
自己株式	△1,733	△1,900
株主資本合計	10,996,213	11,433,315
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△989	2,870
その他の包括利益累計額合計	△989	2,870
新株予約権	99,226	106,981
非支配株主持分	221,811	245,862
純資産合計	11,316,263	11,789,030
負債純資産合計	21,956,430	25,358,417

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	6,517,340	7,500,231
売上原価	3,953,078	4,486,844
売上総利益	2,564,262	3,013,387
販売費及び一般管理費	1,802,823	2,404,825
営業利益	761,438	608,561
営業外収益		
受取利息	28	7
受取配当金	203	160
持分法による投資利益	2,964	—
受取保険金	—	272
その他	1,066	248
営業外収益合計	4,263	688
営業外費用		
支払利息	45,231	38,373
持分法による投資損失	—	6,349
株式交付費	25,825	25,807
その他	1,253	3,999
営業外費用合計	72,310	74,529
経常利益	693,391	534,721
特別利益		
段階取得に係る差益	280,841	—
特別利益合計	280,841	—
特別損失		
固定資産売却損	—	9,139
固定資産除却損	62,557	—
オフィス移転関連損失	104,266	—
特別損失合計	166,824	9,139
税金等調整前四半期純利益	807,407	525,581
法人税、住民税及び事業税	214,129	138,164
法人税等調整額	△69,520	△4,704
法人税等合計	144,608	133,459
四半期純利益	662,799	392,122
非支配株主に帰属する四半期純利益	22,548	24,050
親会社株主に帰属する四半期純利益	640,250	368,072

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	662,799	392,122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△578	3,859
その他の包括利益合計	△578	3,859
四半期包括利益	662,220	395,982
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	639,671	371,931
非支配株主に係る四半期包括利益	22,548	24,050

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	807,407	525,581
減価償却費	135,581	149,084
のれん償却額	17,803	31,599
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	—	△743
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△15,809	△703
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3,106	△12,047
受取利息	△3	△7
受取配当金	△203	△160
受取保険金	—	△272
支払利息	45,231	38,373
持分法による投資損益 (△は益)	△2,964	6,349
株式交付費	25,825	25,807
段階取得に係る差益	△280,841	—
固定資産売却損益 (△は益)	—	9,139
固定資産除却損	62,557	—
オフィス移転関連損失	104,266	—
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△57,182	△34,053
営業出資金の増減額 (△は増加)	7,624	477,173
棚卸資産の増減額 (△は増加)	403,151	△5,506,624
仕入債務の増減額 (△は減少)	△54,734	100,483
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	△132,204	△559,086
その他	145,908	568,353
小計	1,214,521	△4,181,754
利息の受取額	3	7
配当金の受取額	203	160
保険金の受取額	—	272
利息の支払額	△45,231	△38,373
法人税等の支払額	△202,111	△286,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	967,386	△4,506,098
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△18,871	△57,348
無形固定資産の取得による支出	△205,555	△153,993
投資有価証券の取得による支出	△30,000	△0
関係会社株式の取得による支出	△58,500	—
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による収入	351,361	—
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	—	△47,658
その他	△174,503	4,171
投資活動によるキャッシュ・フロー	△136,070	△254,829
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△411,411	104,542
長期借入れによる収入	1,518,344	5,202,544
長期借入金の返済による支出	△1,940,807	△2,459,545
株式の発行による収入	66,720	12,261
その他	△1,532	29,826
財務活動によるキャッシュ・フロー	△768,686	2,889,628
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	62,630	△1,871,299
現金及び現金同等物の期首残高	2,999,148	3,807,535
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,061,778	1,936,235

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2.
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,075,390	5,441,949	—	6,517,340	—	6,517,340
セグメント間の内部 売上高又は振替高	319,502	21,848	—	341,351	△341,351	—
計	1,394,893	5,463,798	—	6,858,691	△341,351	6,517,340
セグメント利益	557,880	279,215	—	837,096	△75,657	761,438

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△75,657千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「AIクラウド&コンサルティング事業」において、当社がDORIRU株式会社(2023年1月1日付でギグセー
ルス株式会社より商号変更)の株式を追加取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんの金額が
600,842千円増加しております。なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による
取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2.
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,744,568	5,726,080	29,582	7,500,231	—	7,500,231
セグメント間の内部 売上高又は振替高	389,451	75	—	389,526	△389,526	—
計	2,134,020	5,726,155	29,582	7,889,758	△389,526	7,500,231
セグメント利益又は損失 (△)	725,078	52,639	△80,040	697,678	△89,116	608,561

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△89,116千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、隣接領域における新規事業開発を各セグメントから切り離し、既存事業と新規事業開発の解像度を向上させることを企図し、報告セグメントを従来の「AIクラウド&コンサルティング事業」及び「不動産テック事業」の2区分から、新たに「その他事業」を追加した3区分に変更しております。

また、第1四半期連結会計期間より、組織の名称変更に伴い、従来「不動産テック事業」としていた報告セグメントの名称を、「ライフ&プロパティソリューション事業」に変更しております。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分及び名称に基づき作成したものを開示しております。